

伊丹文化財ボランティアの会 火曜会通信

第49号

発行日：平成23年5月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

新年度を迎えて 会長 池田利男

東日本大震災で、お亡くなりになった方々に、黙祷をささげ、被災者の皆様に、お見舞い申し上げます。会員のうちに御縁者の方々も、居られる事と思われます。皆様のご無事と御復活を、お祈りいたします。当会といたしまして、日本赤十字社伊丹地区事務局の、災害義捐金、街頭募金に、参加させて戴きました。又、文化財ボランティアの会の「どんぐり座」として、災害義捐金に募金させて戴きました。

平成23年度を迎え、会の益々の発展と共に、16期生を迎える総勢68名になりました。全員が活動可能な方々で、多彩な行事計画が立案されるようになり更に、会員の質が向上してきました。

伊丹は、観光地ではないので、市内の神社・仏閣等の文化財を主体として、ガイドをしてきましたが、市外よりの観光客の増加と、伊丹市内のガイドコースの整備により、充分に観光地としての魅力がでてきました。(有岡城・岡田家酒蔵・石橋家・美術館・柿衛文庫・長寿蔵・西国街道・昆陽寺・辻の碑 等)

まず、観光について。

観光の語源は、中国の儒教の經典「易経」の中に、「觀 国之光」とあります。すなわち「国之光をみる(しめす)」ということです。観光の概念の革新が、必要となっていました。物見遊山ではなくなりました。観光の原点は、ただ単に名所や、風景などの「光を見る」ことだけでなく、一つの地域に住む人々が、その地に住む事に誇りを持つ事ができ、幸を感じる事によって、その地域が「光を示す」事にあります。地域観光の内、文化観光も重要です。

文化観光とは、日本の歴史・伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを、目的とするものです。(観光立国推進基本計画・平成19年6月29日・閣議決定) 以上、我々もガイドの方法・手法等の再教育により、より良い質の向上を図りたいと思います。会員の皆様も、各方面に対処できるように、がんばりましょう。

ご挨拶 社会教育課 課長 田中 茂

未曾有の震災といわれた「阪神・淡路大震災」から16年、それを超える震災が日本を襲いました。多くの人命とともに、多くの文化財も大きな被害を受けております。一刻も早い復興をお祈りするとともに、自分で何ができるのかを考え、行動に移していくたいと考えております。

さて、教育委員会ではこの3月に市内に新たに看板、碑を建てております。一つはNHKのドラマでご存知の方も多いことと思いますが、戦中戦後を中心に吉田茂の懐刀として活躍した白洲次郎の父、文平が建てた家がこの春日丘にあったことを紹介する看板を、春日丘の伊丹緑道に設置しております。もう一つは清酒の醸造法を発明した鴻池家の始祖・山中新六幸元の生誕440年を記念し、鴻池に清酒発祥の地・伊丹をアピールするための記念碑を建てております。市内ガイドの折にはぜひとも新たに加わった2つのガイドもお願いいいたします。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

平成 23 年度総会

去る 4 月 12 日（火）、『伊丹市文化財ボランティアの会』の平成 23 年度総会が会員 55 名の参加のもと、伊丹市教育委員会・生涯学習部・社会教育課 田中課長、赤松課員、宮崎課員を来賓に迎え開催された。池田会長挨拶のあと田中課長から昨年度のお礼の言葉と今年度も引き続き各種イベントへの協力をお願いしたいとの挨拶がありました。総会は規約に従い会長が議長を務め、22 年度の活動経過報告、決算報告がなされ出席者の了承を得た後、23 年度活動計画案、予算案の説明がなされ全員の拍手をもって承認された。今年度は会長以下、役員幹事の改選もなく、4 月入会の新入会員 6 名（1 名欠）が紹介され、歓迎の拍手で迎えられ、総勢 68 名の会員数で新年度がスタートしました。

なお当日、会場に設けた「東日本大震災



義援金募金箱」に会員の皆様から寄せられた義援金 44,833 円を伊丹市社会福祉協議会を通じて日本赤十字伊丹支部へ寄託しました。

ご協力有難うございました。（記 坪倉）

新史跡「白洲屋敷」登録

伊丹で新しく登録された文化財「白洲屋敷」をご存知ですか？ 春日丘 4 丁目の高



緑道沿いの白洲屋敷跡の碑

台に残る史跡の一部は伊丹緑道から見る事が出来ます。本年 3 月 25 日には写真の如く石碑が緑道沿いに設けられました。白洲次郎の父、文平が建てた木造和風建築で敷地は 4 万坪あったそうです。次郎がこの屋敷に住んだかハッキリしませんが華山正子と昭和 4 年 11 月に京都ホテルで挙式、翌年の昭和 5 年 5 月に伊丹町役場へ婚姻届を出しています。（記 細川）

水曜日班屋外研修記

雨で延びていた水曜日班の屋外研修が



淨瑠璃寺三重塔（国宝）

3 月 22 日に行われ、淨瑠璃寺～当尾の石仏～岩船寺までをのんびりと巡った。当日の天気予報は晴れ時々曇り、気温 15~16°C 、

散策にはもってこいの日となった。朝、JRのトラブルで奈良駅着が遅れ、乗り継ぎのバスに間に合うか心配でしたが何とか間に合い総勢 16 名でスタート。バスを降りた先は九体寺の別名を持つ淨瑠璃寺。九体阿弥陀如来像の前で説明を聞きながら阿弥陀様の顔を観て暫し無の境地。彼岸の時公開 中 の 秘 仏 吉 祥 天 女 像 が 観 ら れ た の は 幸


当尾の石仏（笑い仏）

運であった。続いては当尾の石仏巡り、数あるコースの中で距離も約 2.5Km と比較的歩きやすいコースを選定。藪の中三仏磨崖像、古くから「からすの壺」と呼ばれた阿弥陀地蔵磨崖仏、笑い仏、不動明王立像など彫りの美しさを見ながら岩船寺へ。途中、東日本大震災で奈良へ一時避難されていた親娘連れの希望もあり岩船寺まで同行、『伊丹市文化財ボランティアの会』の会名を広めた。昼食は岩船寺前のお土産屋さん。定休日であったがご好意で食事処を提供頂き楽しくお喋りしながら昼食をすることが出来た。食後はすぐ上の岩船寺へ。本堂で寺の縁起や阿弥陀如来座像、四天王立像の説明を聞き、そのお姿に唯々感嘆するのみ、古き歴史を感じさせる岩船寺を後にした。その後の予定では JR 加茂東駅までバスで行く予定にしていたが、「加茂駅まで歩こう」との意見が出て急遽、水曜日班の屋外研修は岩船寺で終わりとし、バス組と徒步組に分かれて夫々が帰路に就きました。

(記 中山)

金曜班屋外研修 内田 裏

1月 28 日 (金) 金曜班担当の屋外研修です。厳しい寒さの中、京都伏見を訪れました。阪急伊丹駅に 9 時集合、稻野、塚口駅で合流して 30 名が参加しました。十三駅からは心配した混雑もなく全員座席を確保して談笑のうちに京都四条河原町に着



伏見稻荷大社

きました。四条大橋では風も冷たく遠くに雪化粧した比叡の山々がのぞみました。京阪電車で伏見稻荷へ、1月末の平日ともなれば、稻荷前の商店も人影がまばらで、初詣の頃の混雑が嘘のようです。

伏見稻荷大社は、全国約 3 万といわれる稻荷神社の総本宮で、五穀豊穰・商売繁盛・家内安全の守護神として、広く信仰されています。大鳥居をくぐると石段の上に朱色の楼門があります。この楼門は天正 17 年

(1589) 豊臣秀吉によって寄進されました。外拝殿、本殿を参拝後、伏見稻荷の代名詞とも言われる「千本鳥居」の朱色のトンネルを抜け奥社に着きました。この奥に「おもかる石」があります。願掛けをした後、参集殿で昼食をとりました。寒い日だったので暖かい部屋での食事がありがたかったです。

休憩後 石峰寺にむかいました。このお寺は黄檗宗の禅道場です。鶴画で有名な伊

藤若冲が釈迦の誕生から涅槃までを表した下絵を描いて石工に彫らせた五百羅漢が境内裏山の竹やぶの中に見られました。長い年月を経てユーモラスな味わいを深めています。若冲の墓も境内にありました。

若冲の名は、老子の「大盈は沖しきが若きも、其の用は窮まらず」

(満ち足りているものは、なかが空虚に見えるが、その働きは尽きることがない)に由来しています。

伏見の酒蔵へ向かいました。中書島駅から濠川沿いに冬枯れの柳を見ながら大倉記念館へむかいました。規模の大きさ、展示資料の多さに感心しながら、利き酒やみ



やげ物の購入を楽しみました。ここで全員での見学を終え、希望者のみで寺田屋に向かいました。寺田屋も昨年の竜馬ブームが去って静かになっていました。

屋外研修は不手際もありましたが、皆様のご協力で事故もなく無事終わることができました。

土日グループ屋外研修 福岡 好子

2月26日(土) 小春日和の良き日、阪急塚口から富松神社まで歩いて行きました。

特大の絵馬に迎えられた富松神社では、善見宮司自ら用意して頂いた富松神社の社務所の居間(明治の神仏分離令までは東光

山福松寺の薬師寺)に入れて下さいました。

富松ひとめぐりマップを手に軽く一巡の予定の我々に対し、盛り沢山のお話を僅か20数分に要約して、富松神社と富松地域の歴史を分かりやすく、熱心にお話して下さいました。又、思いもかけず廊下伝い(過去数回訪れている私も初めてのことびっくりしました)に本殿内部の拝殿へ案内され皆で祈願させていただきました。

正面から入り側面から通り抜けて、後は西運寺・富松城跡・真光寺・円受寺・夜鳴



き石(富松橋東側と円受寺境内の2ヶ所)・道しるべ(破損したまま)・梅ノ木塚とマップの主な所を一巡し、2時間コースを無事に終え帰路に着きました。

伊丹に隣接のこの富松町ですが、案外訪れる機会も少ないと私は思います。皆さんもこれを機会に再度訪れて見られたらいかがでしょう。新たな発見もあることと思います。なお毎年、7月26日に催される伝承行事の薪能には、市内外から観賞にみえる大勢の人々で境内は一杯になります。

養成講座市民ガイド 末松 弘子

今年は年明けから例年ない寒い日が続き異常気象を感じおりました。そして3月11午後日本では今迄に経験したこともない東日本大震災が起こりました。あれか

ら一週間余り、日を追って被害の大きさが増していきます。今はただ復興を祈るのみです。

第16回文化財ボランティア養成講座の市内史跡めぐりが3月19日実施されました。参加者は市民の方15名。現会員等々を合わせ総勢40名の集団です。今回は有岡城跡から北へ向かって伊丹廃寺迄の約4kmを九ヶ所のガイドで歩きました。16期生は5名と少数精鋭で、一人で二ヶ所の



大溝筋前

ガイドもありました。準備も沢山で大変だったでしょうが、皆さん緊張しながらも落着いて解り易い説明で、頼もしく感じました。その日の一ヶ所、私が初めてだった発音寺ですが、本堂に入れていただけるとのこと嬉しさも倍増、観たかった木造三面大黒天の”ニヤリ“としたあの顔がとても印象

にのこりました。

新しく入会の方が加わると刺激を受けて、新たな気分になります。楽しい活動を一緒にしていきたいと思っています。

川柳 乾みのり

飲み込んだ刺ある言葉痛み出す

あれこれとゆうても諭吉命綱

知恵よりも知識の進む世の流れ

情熱の絡む海馬は眠らない

晩節を汚さぬ恋というけれど



伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。
市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。

(☎ : 072-784-8090)

(平成 22 年度活動記録)

ガイド回数 (月別)

4月→3回(98) 5月→2回(33) 6月→4回(90) 7月→2回(94) 8月→1回(30)
9月→4回(119) 10月→6回(181) 11月→9回(281) 12月→5回(175) 1月→2回(40)
2月→4回(66) 3月→5回(283) ※(人数)

(コース別)

岡田/石橋家→ 27回 有岡城跡→ 2回 A コース→ 8回 B コース→ 3回
D コース→ 1回 F コース→ 1回 特別コース→ 5回

(曜日別)

月→ 3回 火→ 5回 水→ 7回 木→ 10回 金→ 10回 土→8回 日→ 4回

研修バス旅行

- ・5/18(火)春季研修バス旅行 行き先→ 湖北方面 (渡岸寺観音堂～木之本地蔵院～賤ヶ岳)
- ・11/23～24(火/水) 文化財ボランティアの会 15周年 特別企画 1泊研修バス旅行を開催。
行き先→ 月山富田城跡～足立美術館～石見銀山

どんぐり座公演回数

- ・5月→ 2回 8月→ 1回 10月→ 2回 11月→ 1回 12月→ 2回 1月→ 1回
計→ 9回公演。(紙芝居 10題 ペーパーサート 4題)

夏休みわくわく教室

- ・8/24(火)「わくわく教室」を開催。紙芝居・ペーパーサートの公演と「まがたま」作りを実施。

歴史ロマン体験学習の支援

- ・体験学習の支援 年合計 12回支援 (各回→ 曜日 G から 1名、計→ 4名参加)

伊丹市ボランティアまつり

- ・10/24(日) 伊丹市ボランティアまつりに参加。(伊丹小学校)
紙芝居の公演 昔の遊びコーナーの開設 市民参加の有岡城外周城壁巡り(北部)の実施。
- 伊丹ロマン事業の支援 (10/31～11/28→ 「江戸時代の伊丹～人・酒～」をメインテーマに開催)
オープニング→ 紙芝居公演、郷町スタンプラリー支援、石橋家展示場の監視・ガイドを担当。
- ・11/13(土)文化財ボランティアの会 15周年記念行事→ 「郷町を歩こう・酒蔵と寺院巡り」を開催した。

有岡城周辺の清掃活動

- ・毎月第4火曜日に実施。計 13回 (3月 2回) 延べ 114 名が清掃活動に参加した。

H23.5月～8月の予定

- ・定例会→ 每月第2火曜日 9時30分～開催 (中央公民館)
- ・有岡城跡の清掃→ 每月第4火曜日 9時30～実施
- ・5/17(火)春季研修バス旅行 (石田三成生誕地～お江ゆかりの地小谷城跡)
- ・歴史ロマン体験学習支援 5/5(土) 6/5(土) 7/5(土) 8/5(土)各月予定
- ・文化財巡り (市民公募) 5/21(土) C コース 6/18(土) D コース 7/16(土) E コース
- ・8月「わくわく教室」を開催予定 (中央公民館)

編集後記

火曜通信の編集を担当して 3 年目を迎えた。読みやすい内容にと改善の努力をしているものの、その効果は中々出てこない。PC 教室・各編集委員方々の力を借り読み易い紙面作りに頑張りたい。さて 4 月 12 日、平成 23 年度の総会が開かれ新年度がスタート、今年度多くの活動が計画されている。会員皆様には健康に十分留意されこの一年間、元気で楽しく活動をやりましょう。(TR)